

文化薫道

◆其の四十五 牛島に残る

「大人足形」の地名

古い「道」には、それを歩く楽しみだけでなく、見つける楽しみがあります。遺跡として地中に埋もれたものもあれば、現在古道として使われ続けているものもあり、古地図や地形などによる探索は、まるで推理小説でも読み解くような面白さがあります。

筑紫野市牛島には、江戸時代の地誌に興味深い記録が残されています。牛島の元々の村があったところ（元村）から北西に二町（約200m）ほど先に「大人（巨人）の足形」といわれる水溜りがある、というのです。

「元村」については、県立福岡視覚特別支援学校の付近に「元村」という小字名があることから大体の位置を知ることができず。ここから北西に進むと、筑紫野市と太宰府市との市境付近に「片谷池」があります。この池が「大人の足形」と称された水溜りであると考えられます。「大人足形」

という地名は全国に存在しており、「おおひと」「うーひと」などと呼ばれています。古代の交通路や駅家の近くによく見られることから、その関係性が指摘されています。



高雄交差点西側から見た旧道

また「片谷池」付近には、筑紫高校の北側を通り、国道3号線の高雄交差点へと、南東から北西へまっすぐ延びる旧道があります。この道に沿って、直線状の約1kmの区間が市境となっており、直線的に拠点を最短距離をつないでいたとされる古代道のなごりが、現在の土地の区画に残っているものと推測されます。

牛島から東側については、旧道（江戸時代の日田街道）とも延伸方向が合うことから、御笠の平野を横断する古代道が存在した可能性がうかがえます。今のところ「道」そのものは見つかっていませんが、今後の発掘調査の成果が期待されます。

問い合わせ先／文化財課

